

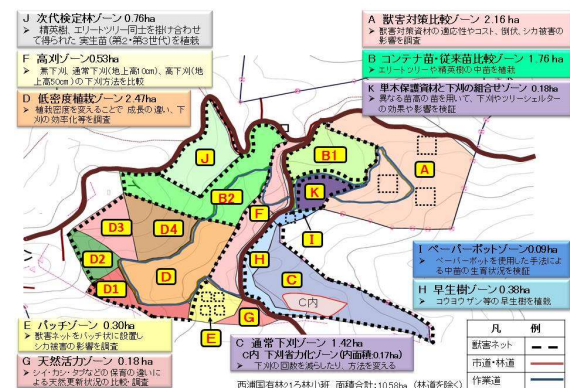
事例 確実な再生林に向けた低コスト造林技術の確立と民有林への普及

九州森林管理局では、低コストで高効率な施業の普及・定着を目的として、平成 29 年度に熊本南部森林管理署管内で「次世代造林プロジェクト試験地」を設定し、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所（九州支所・九州育種場）、宮崎大学との連携により、特定母樹^{とくていぼじゅ}等優良苗木の植栽や、下刈^{くもとなんぶ}の省略、低密度植栽、早生樹植栽等先駆的手法の効果を検証しています。

平成 30 年度には、シカ被害の軽減^{しょうたん}や下刈作業の省力化を目的として、植栽木の梢端^{たか}が周囲の雑草等に埋もれない程度の下刈（高下刈）について、有効性を検証する 5 年間の試験を開始しました。1 年目の試験では、通常下刈と比較して誤って苗木を刈ってしまう割合は 2 分の 1 に低減し、作業効率は 3 割ほど向上するという結果が得られました。

今後引き続き、残存した雑草等によるシカ被害の軽減効果や植栽木の被圧状況、下刈作業の作業効率や誤伐率等について検証を実施していくこととしています。

（九州森林管理局）



地際より 50cm 程度
浮かせて刈り払う



場所：熊本県人吉市 西浦国有林

説明：図は、「次世代造林プロジェクト試験地」の全体図、写真は、高下刈作業の様子です。